



地域・農業に活気が生まれるセンターに



事業の背景・目的

ふるさとの味や地域農産物等を提供するため、平成18年にオープンした「いきいき交流センター大内」。
施設は県営中山間総合整備事業を活用して建設し、現在は地域のシンボリック施設となっている。

いきいき交流センター大内

夏祭りなどのイベントも！



③体験（交流）部門



農業や自然、伝統工芸品や伝統芸能について、都市住民との体験交流などを通して紹介！

①直売部門



農産物・加工品・工芸品を組合員が生産し「活性化センター」内で展示販売！



<近隣施設> 鹿狼山いちば

登録会員数は194名！

地域一体となって
行っている。



②加工部門



菓子製造、製粉加工、製油加工(えごま等)を行い、施設内で展示販売！



<近隣施設> 農村レストラン 味の里

③農村レストラン部門



特産品の自然薯を使用したうどんなど、大内地区ならではのふるさと料理を提供！

地元住民と新メニュー考案中



年間利用者数・売り上げ金額

年度	利用人数	売り上げ金
平成22年度	89,403人	76,017,712円
平成23年度	71,514人	64,772,013円
平成24年度	61,904人	55,119,159円
平成25年度	67,662人	61,879,800円

平成18年オープン以降は年々利用者が増え、平成22年度には9万人弱まで増加、年間売り上げ金で7,600万円に。

原発事故を境に利用者がかかなり減少するも地域住民の努力により、平成25年度には前年度を上回る。

現在も復調傾向が続いており、あらためて地域に活力を生む施設であることを実感。